

## 恋風鈴

### 【歌詞】

「君のことが好きなんだ。」とでも言えばいいのだろうか。  
この煩い心が、がなり立ててくる。  
移ろいゆく感情、こんな風じゃこの感情も届かないな。  
いつも視界のどこかにはハイライトされた君が居て、  
この世界を色づけたのは他でもない君だった。

なんて事のない日だった、パツとしない君は。  
私今まで知らなかったんだ、君が優しい人だって。  
いつからなのだろうか、君の優しさだけが  
特別なものになったのは。

揺られどもならぬ風鈴、君には私のこの鐘の音が  
聞こえてしまいやしないだろうか。  
きっとこのままじゃ居れない。そんな予感を  
今は目を背ける。

君のことを見つめると、行き場のないこの疼痛が  
不確かで証左もないはずの、この心に降り積もる。  
今日もなんて事のない青春の1ページに交わされる。  
ふと交わる君の視線、私の時間が止まる。  
君は気にもしないだろうけど、この火照りを冷ますのは  
いつもの教室の機械的な冷氣だけだった。

揺られどもならぬ風鈴、君には私のこの鐘の音が  
聞こえてしまいやしないだろうか。  
恨んだりなんかしないよ、でもこの痛みは  
誰のせい？ 心（うら）ぶれた言葉がそっと地に落ちた。

心はどうしていつもそう、そう口にするのは簡単で、  
またこのモヤモヤが私を隠してしまうのだろう。  
君の言葉はいつの間に、私の本当(ぜんぶ)をかき分けて、  
きっと、暴いてしまうのだろう。

揺られどもならぬ風鈴、君には私のこの鐘の音が  
届くだろうか？

きっと何かが変わる。もう手が届きそうなこの距離も  
失いたくはないあの日々も。

また明日ね。